COMMUNI STATION
あなたと国際交流協会をリンクする会報紙
［コミュニステーション］
VOL.79

Essay。エッセイ

国際交流協会設立20周年に思うこと

当協会国際交流ボランティア
事業企画運営部会リーダー
柿原　ヤヨイ

平成元年4月に設立された㈶豊橋市国際交流協会は、今年で設立20周年を迎えようとしています。協会設立当時の豊橋市には、まちで見かける外国人の姿も少なく、およそ30か国、3千500人程度の数でしたが、今ではおよそ世界70か国、2万人の外国籍の人々がこのまちに住み、働き、市民として生活しています。

私も国際交流協会が設立された時にボランティアとして参加し、協会とともに歩んできたと感じていますが、アッという間の20年でした。

その間、産業や教育など多方面で豊橋市はすばらしい国際都市として発展しました。また、中国南通市との友好都市提携、米国トリード市との姉妹都市提携、愛・地球博での6か国フレンドシップ事業など、多くの国々との活発な交流の中で、多種多様なボランティア組織も生まれ育ちました。

現在、約250人のボランティアと約25の団体が協会に登録し活動しています。

設立時から行われている「インターナショナル・フェスティバル」は、当初は500人ほどの規模でしたが、今では3千人を超える人々で賑わい、このまちに住む外国人と日本人との交流の場として楽しまれ、親しまれています。協会での日本語ボランティアが運営する「にほんごきょうしつ」も、特に土曜日、日曜日は日本語をマスターしたい200人を超える外国籍の人々が訪れ、ボランティアの皆さんはてんてこ舞いをしながらも熱気に溢れています。今日、小中学校にも外国人児童生徒が増えてきました。子どもからお年寄りにいたるまで全ての市民が、外国の人々とともに互いに理解し合いながらこのまちをつくっていく時代を迎えています。

のんほいパークにて原教授、トリード大学生たちと

毎年、アゼリアの花の咲く5月になると、15人ほどのトリード大学の学生が、ジョセフ・原教授に引率され来豊します。彼らは愛知大学や豊橋商業高校など、姉妹校提携を結んでいる学校での体験授業や企業見学、日本文化の勉強をしながら、1週間ほどホームステイで豊橋に滞在します。私は長年そのお世話に携わっていますが、生花や茶道をはじめ、日本の文化や伝統に触れる時の、彼らの輝くまなざしや真剣な態度にはいつもハッとさせられます。もっと深く自国の文化、歴史を勉強し、相手の国のこともきちんと知る努力をしよう、と心改まる思いです。また、彼らが豊橋を去る時の、ホストファミリーとの別れを惜しむ様子は、いつも心に響く感動があります。彼らにとっては豊橋は第二のふるさとであり、卒業後再び豊橋に戻って、ALTや国際交流員として就職し、家族を持つ人もいます。

ドイツからもたくさんの人々が訪れます。市制90周年を機に10年にわたって続けられた「日独交流・音の架け橋コンサート」では、延べ700人以上の合唱団やオーケストラ、音楽関係者が来豊しホームステイをして、豊橋の市民と交流を深めました。シュレーダー首相、ドレスデン皇太子などドイツを代表する方々も、来日の折には、忙しいスケジュールの合間に豊橋に立ち寄られました。

温かいこのまちの人々の心に触れ、海を越え、言葉の壁を越え、国を越え、民族を越えた信頼関係が生まれています。

豊橋市国際交流協会は、この20年の間に、多くの人々の熱い情熱と温かい励ましに支えられながら発展してきました。その取り組みも、いま、外国の都市との「交流」から「協力」、そして「共生」へと裾野は大きく広がってきています。このまちに住むすべての人々が、それぞれの個性を発揮し輝きながら、ともに活き活きと生きていくことが大切だと考えています。これからも、多くの人々が集い、人と人との輪がさらに大きく広がり、この地域が世界中の人々からますます愛され、親しまれる国際都市として発展していくことを心から願っています。